

バーチャル体験防災学教室（出前授業）

辰己 賢一

2007年10月10、11日にかけて宇治市立木幡中学校で行われた文化祭に技術室として模型の出展をさせていただきました。

最初に京都大学防災研究所 斜面災害研究センターの教授の釜井俊孝先生が「地震とその被害」の題で約30分お話しされたあと、技術室が出展した地震計、振動台模型（液化と高層ビル模型）、エッキーの実演を行いました。

釜井教授による講演では、地震についての基礎的な知識について詳しく丁寧にお話されておりました。木幡中学校付近の活断層や地震発生の可能性についての話が及ぶと、特に中学生は熱心に聴講されていたように思います。地震計では、中国の古い模造地震計と現在日本全国に展開されている地震計を展示し、地震の波形をとらえる原理などを説明しました。床を足でふみたたくと地震計に接続されたシンクロの波形が波打ち、その様子に深く見入っていた中学生もいました。振動台模型では、地盤の強弱による建物の揺れ方の違い、筋交いのあるなしによる建物の揺れ方の違い、飽和状態にある砂の上に置いた模型が振動によって砂の下にもぐりこんだり、砂の下に埋めた模型が砂の上に浮き上がってきたりする様子を実演しました。それらの挙動について、だいたいの予想・検討はつくものの、実際の模型を動かして明らかに建物の動きが違っている様子などを見せたとき、不思議そうな顔をしている中学生がいました。頭で考えることに加え、実際に目で見てそれを確かめることの重要性を認識させていただいたと思っております。

今回技術室のメンバーとして、中学校文化祭の場をお借りして模型を出展し、中学生を前に説明し実演を行わせていただいていた改善点を下記に列挙いたします。

- ・ 実施した後の反省する機会を設けられていない。このような機会で活動するのは個々の見識・視野を広めることに寄与するとは思いますが、今後への改善などについて話し合われる機会があったほうが組織として、また個人としても有益なだと思えます。
- ・ 説明力不足。やはり内容についての専門知識を有していない。またそのような立場ではないためか、自分も含めやや説明の精度が低いように感じた。支援組織という立場で、なかなか生産的・有機的な知識・知恵の取得が難しい現状を踏まえた上で、よりよい方向性を打ち出していく必要があるのではないかと思います。



写真 1 木幡中学校文化祭



写真 2 釜井先生による講演



写真 3 地震計の説明



写真 4 振動台模型を使った実演(1)



写真 5 振動台模型を使った実演(2)



写真 6 液状化現象